

WEEKLY SIGNAL

2020年5月1日(金) 1523号
上田八木短資株式会社

米国の市場とレート予想						上田 八木 短 資 株 式 会 社					
5/4～6		5/7 (木)	5/8 (金)	5/11 (月)	5/12 (火)	5/13 (水)	5/14 (木)	5/15 (金)			
無担保O/N		△ 0 . 0 8 7 %	～ 0 . 0 0 1 %			△ 0 . 0 8 7 %	～ 0 . 0 0 1 %				
銀行券		+ 3,600	+ 2,000	+ 1,000	+ 1,000	ト ン	ト ン	ト ン			
財政他		△ 53,700	△ 6,000	△ 40,000	+ 1,000	△ 27,000	+ 1,000	+ 2,000			
資金需給		△ 50,100	△ 4,000	△ 39,000	+ 2,000	△ 27,000	+ 1,000	+ 2,000			
主な要因	祝日			国庫短期証券 発行・償還(3M・6M) 国債発行(物連)		国債発行(10年) 源泉税揚げ		国債発行(30年・個人) 国債償還(2年・個人)			
オペ期日		CP等買入 △ 200 国債補完供給 + 1,700		共通担保(全) △ 13,400				米ドル資金供給用 + 5,500 担保国債供給 被災地支援 △ 300			
オペスタート		ETF買入 + 1,300									
(日本)		営業毎旬報告(4月30日現在) マネタリーベース(前年比)		金融政策決定会合における 主な意見(4月27日分)	景気先行CI指数(3月) 景気一致指数(3月) 営業毎旬報告(5月10日現在)	国際収支:経常収支	マネーストック(4月)(前年比)				
(海外)	5/4 ユーロ圏 製造業PMI(4月) 5/5 米 貿易収支 (3月) 米 ISM非製造業 総合景況指数 (4月) 5/6 米 ADP雇用統計(4月) ユーロ圏 総合PMI(4月)	米 新規失業者保険申請件数 (5月2日終了週) 英 BOE政策金利発表	米 雇用統計(4月) 米 卸売在庫(3月)		米 CPI (4月)	米 PPI (4月) 英 GDP (1Q) ユーロ圏 鉱工業生産(3月)	米 新規失業保険申請件数 (5月9日終了週)	米 小売売上高(4月) ユーロ圏 貿易収支(4月) ユーロ圏 GDP(1Q)			

【インターバンク市場】		<インターバンク>	
無担保ターム物	予想レンジ	日銀当座預金残高は、週初410兆7,100億円から始まった。30日に国庫短期証券・国債買入オペ、CP等買入オペがスタートし412兆2,000億円まで増加したものの1日には国債発行があり409兆600億円で越えた。	
SPOT 1M	△0.030 ～ 0.030	無担保コールON物は先週と比較すると、弱含む展開となった。同加重平均金利は週初△0.047%から始まり、その後は低下基調を辿り、月末となる30日には資金調達を控える動きがみられたことで△0.060%となった。一方、6日積みとな	
SPOT 2M	△0.020 ～ 0.040	る1日にはビッドサイドの調達意欲が盛り返し、同金利は△0.044%となった。	
SPOT 3M	0.000 ～ 0.070	ターム物は先週に引き続き1W～1Mの期間で、△0.030～△0.020%の出合が見られた。	
SPOT 6M	0.000 ～ 0.130	日銀は27日に金融政策決定会合を開催し①CP・社債等買入れの増額、②新型コロナウイルス対応金融支援特別オペの拡充、③国債のさらなる積極的な買入れにより一段の金融緩和の強化を決定した。	
		来週の主な予定として海外では7日にBOE政策金利発表、8日に米雇用統計(4月)がある。	

【オープン市場】		<C P>	
CP3M(a-1+)	0.030 ～ 0.100	今週の入札発行総額は約4,700億円で、週間償還額(約9,400億円)を下回った。発行市場は、月末の大量償還(約6,700億円)に対し、新規発行は2,000億円強に止まるなど、週間を通じてやや閑散な取引状況となった。発行残高は、先週	
TDB 3M	△0.150～ △0.100	末の23兆7,603億円から4月末日時点では約23兆2,350億円と、5,250億円程度減少した模様。27日に行われた日銀金融政策決定会合で、CP等買入オペの追加買入枠の増額(1兆円→7.5兆円)、新型コロナウイルス感染症対応金融支援	
現先(on/1w)	△0.003 ～ +0.001	特別オペの拡充が決定した。日銀金融政策決定会合の結果を受けて、発行レートは低下が顕著となり0.01%近辺～0.20%台前半での出合いとなった。	
		来週の週間償還額は、約1,500億円となっている。発行市場は、連休の狭間となるため案件減少し取引閑散が予想される。発行レートは、日銀のCP等買入オペの買入上限が大幅に引き上げられたことから、引き続き低下余地を模索する	
		展開を予想する。	

<TDB>
5月1日の3M904回債(8/3償還)の入札は、最高落札利回り△0.0995%、平均落札利回り△0.1061%となり、入札後△0.12%～△0.13%のレンジで取引された。そのほかセカンダリーでは3M903回債(7/27償還)が△0.145%～△0.155%、1Y901回債(4/20償還)が△0.195%の水準で出合いが見られた。

<レポ>
定評GC取引は、月末初物で△0.1%台半ば、GW越えの期間で△0.1%台前半で取引された。その後、短国3Mの発行日となる7日受渡しはレートが急上昇し、△0.08%～△0.05%近辺での出合いとなった。SC取引では、2年405～412回債、5年137～143回債、10年336～358回債、20年164～172回債、30年59～66回債、40年9～12回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。